

てつどう えき  
鉄道と駅(3)と え い しんじゆくせん  
都営新宿線

江戸川区を通る2つ目の地下鉄である都営地下鉄10号線(新宿線)の計画は、昭和43年(1968)12月28日、新宿～住吉町の間11.55kmについての、都市計画交通審議会への答申に始まります。これは、東西線が開通する3カ月前のことでした。

そして昭和46年(1971)5月から馬喰町～住吉町間を皮切りに工事が開始されました。

当時、区内の中央部から都心に出る交通機関はなく、総武線か東西線を利用するしかありませんでした。また人口の急激な増加とともに、路面交通は飽和状態でした。最寄り駅までのバスが渋滞し1時間以上もかかることもあり、中央部居住者の足の確保と利便性の向上が必要だったのです。

そのため、江戸川区民の地下鉄開通の願いは強く、路線を区の中央部にまで導入してほしいという約5万人の声を集めた請願が、昭和44年(1969)6月16日、江戸川区議会あてに提出されました。これを受けた区議会は同年10月2日に本件を全員一致で可決し、関係機関に対し路線延長に関する要望書を提出したのです。

こうした運動が実り、同47年(1972)3月2日の東京都都市計画審議会で、東大島駅から区内を横断し、千葉県の本八幡駅もとやわたまでの延伸が決定し、区内には船堀・春江・西瑞江にしみずえ・篠崎の4駅が設置されることになりました。

しかし、昭和50年(1975)のオイルショックや都の交通関係の



旧中川の上にある東大島駅

累積赤字などの理由により、昭和52年(1977)の完成予定は暗礁に乗り上げました。

昭和51年(1976)8月17日、江戸川区は「都営地下鉄10号線建設促進協議会」を設立し、区内延伸の早期実現のため、区民と行政が力を合わせて運動を展開しました。都知事



新宿線の試運転(船堀駅・昭和58年12月22日)

ほか関係機関だけでなく、同52年(1977)4月に自治大臣、同53年(1978)1月には運輸大臣に国の早期工事認可を要請したのです。

昭和53年(1978)12月21日、東大島駅が開業しました。この駅は旧中川の上にある珍しい駅で、東口は江戸川区、西口は江東区という、二つの区にまたがって出入り口が設置されました。

さらに、翌年12月24日都市計画地方審議会が荒川以东への延伸を正式に決定しました。荒川および中川を越えて船堀駅が開業したのは昭和58年(1983)12月23日でした。

### 3つの駅が同時開業

昭和61年(1986)9月14日、一之江駅・瑞江駅・篠崎駅が開業しました。これにより、多くの区民が待ち望んでいた都営新宿線の区内間約4.9kmが開通したのです。本線は地下鉄には珍しく、地上に駅ビルと駅前広場・バスターミナルが設けられ、従来の地下鉄駅のイメージを一新させました。

なお、篠崎駅から本八幡駅までの2.8kmの開通は、平成元年(1989)3月19日で、これにより区民の生活環境がまたひとつ大きく向上しました。

### 住民の協力

新宿線開通までには、区民と行政が手を携え、粘り強く早期実現を各方面に訴え続けた長い歴史があります。これは「都営地下鉄の建設史上、住民がこれほど協力的なのは初めて」とまで言われました。それだけ区民の悲願であり、地下鉄にかける期待が大きかったのです。

## 江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス3階  
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)